

フォーラム

特定非営利活動法人 奈良21世紀フォーラム会報

2026
新春号
No.42

ニュース

◇ 2025年実施の主な事業

- 4月 4日 奈良の歴史文化資源の探訪の実施
秀長ゆかりの郡山城址と城下町めぐり
- 6月15日 令和7年度 理事会・通常総会開催
- 10月25日 第十六回大仏書道大会「大仏書道展」
～26日 「席書会」の開催
- 11月 3日 源流まつり in 和歌山「しらすまつり」
- 11月27日 奈良の歴史文化資源の探訪の実施
国宝「法相宗大本山興福寺五重塔、
令和大修理の現場」



年頭所感＝年初を迎えるにあたって＝

特定非営利活動法人 奈良 21 世紀フォーラム
理事長 橋本 隆史



会員の皆様にかかれましては、新しき年を恙なくお迎えのことと存じます。

平素より格別のご協力を賜り、そのお陰をもちまして当フォーラムの活動も順調に推移しており、厚くお礼申し上げます。

早いもので、令和の御代も 8 年目の春を迎えます。

年々歳々、光陰矢の如しを実感する日々ですが来年(令和 9 年)6 月平城宮跡に天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第 77 回全国植樹祭が挙行される予定です。

昭和 56 年 5 月から実に 46 年ぶりの開催となり、今回は天皇陛下がお手植えされる樹種 3 種の一つに、奈良県花・奈良市花のナラノヤエザクラが選定されています。誠に光栄なことで皆様と共にその日を楽しみにお待ちしております。

慶賀の一方で、ロシアによるウクライナ侵攻、中東のガザ地区をめぐる紛争やアメリカトランプ大統領による一国主義が世界情勢を不安定なものにし、その余波を受け日本経済へのダメージが深刻なものとなり、主食のお米を始めとする物価高、業種によって人手不足が常態化し先行きの不透明感が増すなか、奈良県から初の宰相が誕生致しました。政権与党の組み換えはありましたが、諸施策のスピード感をもった対応に大いなる期待を抱いております。

さて、当フォーラムも平成 12 年の設立から四半世紀の歴史を刻んでまいりました。設立以来の主たる取り組みは下記のとおりです。

- 1、万葉蹴鞠の復元
- 2、書の文化の伝承
- 3、県内の歴史・文化資産の探訪
- 4、県内企業の企業文化・企業風土の調査と紹介
- 5、吉野川源流の水源地の森を守る活動支援

上記の取り組みのなかで書の文化の伝承は、「第十六回大仏書道大会」として 10 月 25 日・26 日に実施し、11 月 27 日には奈良の歴史・文化資産探訪として法相宗大本山興福寺さんにご配慮いただき、令和 4 年から進められている「国宝興福寺五重塔保存修理事業」の現場を視察致しました。

ただ残念なことに、5 月及び 10 月に予定していた万葉蹴鞠の復元事業「春日大社奉納万葉蹴鞠」が、両日とも荒天のため中止となりました。衣装が雨の影響を受けやすいことも中止した要因の一つで、その対策として少々の雨でも対応可能な衣装を新調すべく準備を進めているところで、今年は実施したいと願っております。

最後に、今後とも諸事業を進めつつ会員相互の親睦を図りながら、奈良を盛り上げる情報発信に努めてまいりますので、これまで同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 8 年 1 月吉日

令和7年度理事会・通常総会開催

活動実施の方針・事業計画を決定

○令和7年度通常総会の開催

令和7年度通常総会は、6月15日(日)にリガーレ春日野において開催しました。総会では、令和6年度の事業報告及び決算の承認、令和7年度の活動実施方針、事業計画および予算を決定しました。



◇活動実施の方針

奈良県の歴史文化とそれを取り巻く自然環境の魅力を再発見し、奈良県の活性化に結びつく提案活動を行う。

伝統的芸能文化として定着しつつある「万葉蹴鞠」の紹介や、奈良県内の伝統行事の紹介のほか、奈良県の観光立県としての持続的な観光振興のための取り組みに積極的に協力する。

そのほか、奈良県内に根をおろし、発展し続ける企業の伝統、文化、経営理念と、奈良の風土とのかかわりを調査、記録し、県内で活躍する企業を県内外に紹介する。

まちづくり等を支援する企画事業の提言・提案事業は、川上村で実施される行事等に協力する。

◇令和8年度の事業計画

1、「万葉蹴鞠」の復元

県内における伝統的芸能文化として発掘した「万葉蹴鞠」の実演を通して、県民に伝統的芸能文化を啓蒙すると同時に、当県への観光誘致・情報発信の基礎資源として活用する提案を行う。

◎ 2026年(令和8)年5月23日(土) 春日大社・林檎の庭にて奉納予定

2、「書の文化」の伝承

県内の地場産業、地域文化を見直し観光資源として地域活性化に結びつける活動を行う。東大寺の協力を得て大仏書道大会を開催し、全国から作品を募集し入選作品を大仏殿西回廊において展示、また西回廊において席書会を開催する。

◎ 2026年(令和8)年10月24日(土)～25日(日)開催予定

3、「奈良県内の歴史文化資源」の探訪

日本人の心の原点をさぐる活動として、奈良県内の神社仏閣をはじめとする文化・資源を顕彰し、付加価値のあるプレミアム感満載な視点で紹介する。

合わせて食文化を発掘し観光資源として地域活性化に結びつける提案活動を行う。

本年度の第一弾として、当会々員を対象に宝山寺獅子閣(非公開)・国宝長弓寺を特別拝観する予定でございます。

◎ 2026年(令和8)年4月3日(金)実施予定

4、「奈良県企業の企業文化、企業風土」の調査、紹介

奈良の風土に生まれ成長するユニークな企業を対象に製造・製作・展示等の現場や様々な形で社会貢献に励む企業のリアルな姿に触れる企業見学会を実施する。

5、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」支援

源流の村・川上村で実施される行事に積極的に参加する。

森と水の源流館と連携し、川上村の自然、歴史文化の啓発に努める。

2025年1月から12月までに実施した事業内容

1. 万葉蹴鞠の保存

◎春日大社奉納蹴鞠の実施

実施日 令和7年5月25日(日)・10月5日(日)※両日共荒天に伴い中止
会場 春日大社・林檎の庭及び飛火野

5月及び10月に予定していた万葉蹴鞠の復元事業「春日大社奉納万葉蹴鞠」が、両日も荒天のため中止となりました。衣装が雨の影響を受けやすいことも中止した要因の一つで、その対策として少々の雨でも対応可能な衣装を新調すべく準備を取進め、実効性のある活動を重視すると共に万葉蹴鞠の普及活動に邁進してまいります。

2. 書の文化の伝承

◎第16回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 令和7年10月25日(土)～26日(日)
会場 華嚴宗大本山東大寺・大仏殿西回廊

華嚴宗大本山・東大寺大仏殿西回廊に於いて10月25日(土)～26日(日)の2日間、「第16回大仏書道大会」の書道展を開催しました。

当書道展は、平城遷都1300年を記念して始まって以来毎年開催しており、今年で第16回目を迎えました。単なる教科書的な技術だけではなく、自由な感性、創造性や味わい深さなども加味し、書の可能性を感じさせるような作品に光をあてる稀有な大会として、全国から毎年多数の応募をいただいています。少子化に伴う生徒数の減少や、パソコン・スマートホンの影響による書道離れ等、作品の減少が案じられましたが、関係する多くの方々のご協力もあり全国53の高校・大学から1,545点の応募を頂くことができました。

大仏書道展にさきがけ、10月3日に朝日新聞社奈良総局において東大寺長老森本公誠氏(当フォーラム理事・特別顧問)を審査委員長に迎え、高校や大学の書道教員の方々に審査に携わっていただき7点の特別賞と93点の入賞作品を選定しました。



審査会(朝日新聞社奈良総局)の様子

筆で書く楽しさが伝わってくる作品、若者らしい意欲的で希望に満ちた力強い作品等個性を発揮した作品が数多く見られ、今年もまた優れた作品を多数応募された団体に贈られる奨励賞には、埼玉県立所沢高校、同じく埼玉県立越ヶ谷高校の2校が選ばれました。

25日・26日の両日、受賞作品100点を大仏殿西回廊に展示し、入選者や学校の関係者をはじめ参拝客や訪日外国人観光客の方に観覧していただき、800名余りのご来場を得ました。

26日には席書会を開催、東大寺・長老森本公誠氏よりお話しを伺ったあと、写経と自由題の作品を揮毫しました。

その作品は森本長老より御祈願の上大仏様に奉納していただきました。



展示会の様子



席書会（西回廊）の様子

☆特別賞7点の紹介

東大寺賞「金字の祈り」

小野寺 結子さん（四天王寺高校）

東大寺ほかに所蔵される賢愚経「(大聖武)」は文字は堂々たる大字、主に「茶毘紙」に書かれたものが伝わっていますね。

作者はこの奈良時代の謹厳方正な写経の書風はそのままに、祈りを「紺紙」「金字」に込めました。

この用具用材の選択により華やかな美しさが加わりました。



奈良県知事賞「いれものがない両手で受ける」

入江 佑香さん（奈良教育大学）

心強いメッセージです!!

柔らかい羊毛の筆を使いこなし、この文言にふさわしいしっかりとした筆運びです。中央の仏様は同じ筆の鋒先を使い伸やかに描かれています。

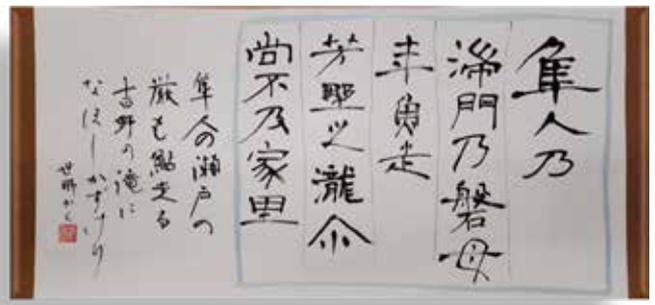
控え目に色を入れたことも効果的で、よくまとまった作品となりました。



奈良県教育長賞 「隼人の思い」

大郷 世那さん(四天王寺大学)

この歌の作者大伴旅人は、隼人征伐のため薩摩に向かいます。遥か吉野の離宮を想って詠んだ歌、その万葉歌碑が地元にあるのです。現代人が「万葉仮名」をどのような書体で書くかは悩むところです。隷書を学んだのでしょうか、深みのある線を巧まなくて書いています。筆に親しみ、書が好きで書いていることが伺える書風です。



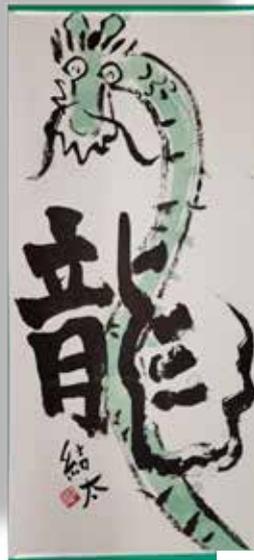
奈良市長賞 「天に昇る龍」

倉島 結太さん(新潟県立新潟南高校)

いきいきとしたタッチで下絵の龍の顔やひげ体を描き上げ、特に上から下へカーブして一気に筆を運んだ体の線がみごとです。

この線の「墨のかすれ」が文字を引き立て、舞うように書いた(絵のように描いた)最終画と呼応しています。

片向いた名前も紙面にマッチしています。



奈良市教育長賞 「空」

小林 愛果さん(埼玉県立越ヶ谷高校)

奈良の伝統産業である「墨」の特性を生かした作品です。

淡い墨の色も美しく筆順通りに先に書いた方が上になりますが線の輪郭が白くなるのはどのような技法でしょうか、おもしろい効果が生じています。

紙面いっぱいの一文が文字を越えた空の表現になりました。



朝日新聞社賞 「大仏様のほほえみ」

松田 和真さん(大阪府立市岡高校)

応募作品の一部に、墨流しの技法や霧吹きを使った下絵の工夫が見られます。その中でこの作品は下絵に白い空間をあえて残している点が評価されました。そこに書かれて言葉がやさしく響きます。印は、篆刻作品としてよく出来ており、印のみの落款としたことが、全体をひきしめています。



奈良21世紀フォーラム理事長賞 「馬」

渡邊 草太さん(新潟県立新潟南高校)

七文字の形や大小の変化、その配置によ生まれる空間、そのすべてが、自然な筆運びの中で行われた「作為」を感じません。

このような作風「卒意の書」に学びたいものです(大人になると難しいのです・・・) かわいい馬の絵も素朴で好感の持てる魅力的な一幅です。



3. 奈良の歴史文化資源の探訪

◎秀長ゆかりの郡山城址と城下町めぐり

実施日 2025年4月4日(金)

参加者 12名

来年(2026年)のNHK「大河ドラマは」
「豊臣兄弟」主人公秀長ゆかりの地をめぐる。

午前10時、「近鉄郡山駅」西改札口に集合。

最初に向かうのは、これより西方向にある
「大納言塚」。出発時は小雨がポツポツと数滴、
頬にかかったと思うと、すぐ止み15分足らずで
着いた。それは静かな住宅地の一角にあった。

1591年1月に郡山城内で没した豊臣秀吉の弟秀長の墓所である。石段を数段上がると中央に立派な五輪塔があり、よく見ると下方に戒名「大光院殿前垂相春岳紹榮大居士」と線刻してあるが、訪れた者により解りやすく、縦長の板に墨字で書かれた戒名が、石塔前に立てかけてあった。豊臣氏滅亡後、墓地と戒名の位牌は城下にある春岳院に託されたが墓所は現在も地域ぐるみで手厚く護っているという。

地域の人たちは秀長のことを親しみを込めて「秀長さん」と呼ぶが、このことからいかに地域の人たちに愛されているかがよくわかる。お参りのあとは、来た道を少し戻り、郡山城址の方向へと歩く。途中にある、郡山城から移築した立派な構えの山門の永慶寺の前を通り過ぎると、間もなく郡山城址だ。東へ回り、追手門から入る。

手前に追手向櫓、並びに東隅櫓があり、これらは昭和期に大和郡山市民により、秀長築城当時に近い形で再建されたもの。城内を囲む野面積みの石垣が美しい。門の中は、2月の頃ならば梅の香りに包まれる梅林を通り柳沢文庫へ。

建物は郡山最後の藩主であった柳澤家の迎賓館的空間として使われていたもので、現在は柳澤家歴代の書画や古文書等…、柳澤ゆかりの品々を展示してあり館長自らの説明を受けた。

このあと、前の芝地でお弁当に舌鼓を打った。

周りの桜は七分咲きぐらいで見頃を迎えていた。

城内はソメイヨシノをはじめ、これらシダレザクラ他800本が植えられていると聞くと、これらのサクラは、秀長が植えたことに始まるという。

いよいよ天守台跡の本丸へと向かう。近年再建された「極楽橋」を渡ると、本丸へと進めるようになっている。元々は本丸へ登城する正式ルートの橋として架けられていたという。天守に登る前に講師より今日のメインとなる郡山城のことそして歴代城主の話や秀長の成し遂げたこと、人となり等…用意された資料に基づき、詳しい説明があった。話の内容から歴代の城主はいずれも織田、豊臣、徳川重臣であったことから、郡山がいかに重要な地であったかが、感じ取ることができた。このあと天守台へ登る。

そこは、空が開け、360度の眺望。ガラス張りの足下には発掘された礎石の一部が見ることができ、また説明板に目を通すことで想像がかきたてられた。専門家の見解では



大納言塚



柳沢文庫内

礎石の大きさや配置から、また当時の築城技術からみて、天守の高さは五層程度と見られている。金箔瓦の破片も出土しており、このことは豊臣城郭象徴するものであり、いかに荘厳な建物だったかが、伺い知ることができた。景色を堪能したあと、天守台を下り、取り囲む石垣を観察する。隅角部の大きな礎石の転用石を目の当たりに見ることができ、触れることもできる。ことに有名なものが、逆さ地蔵だ。仏が浮き彫りにされた表面を下に向けて、頭部が奥に沈むような角度で見ることが見て取れる。もう一段下の堀に囲まれた本丸の石垣は間近に見ることはできないが、こちらにも石塔や墓石、石臼など…各所に多種の転用石が使われるなど、城内全体で1000石余り存在するというから驚きである。これだけ集中した転用は全国でも例がないらしい。そこには、どんな石を使ってでも立派な城を造るのだ、という豊臣家の威信のかかった城への思いが込められているように感じ取ることができた。秀長の入城後、郡山は政治的経済的に大きな意義をもつようになる。百万石の領主にふさわしい城郭を構築するとともに、「箱本十三町」といわれる新しい町家自治制度を始めた。

城下の東南に有力な商工業者を集め、土地にかかる税金を免除し自治権や独占営業権を与えて強力な城下町振興を行ったのだ。十三町には、堺町、本町、魚塩町(現在の魚町・塩町)茶町、材木町等があるその面影を残す町名や町家が今も残っている。城下町をぶらり歩きながら、箱本十三町の一つである紺屋町に入る。両側に軒の低い家並が続く道路の中央に水路が通り、城の堀につながっているといい、城下町の風情が色濃く残る。かつては、この水路で13軒の藍染職人が藍染の布をさらしていたという。水路前の「箱本館 紺屋」は当時の町家を修復再現したもので、藍染体験ができたり美術工芸品などの金魚のコレクションの展示が楽しめたり、街歩きで疲れた体を休めることのできる休息場所ともなっている。

これより町歩きもいよいよ終盤に近付いてきた。次はちょっと気分を入れ替え城下町に佇む花街のなごりをたたえる遊郭跡を見学した。道に面する本館は大正13年に建てられたといい、窓に細い格子がはまった木造3階建ての建物。館内は、関係者の案内で、つぶさに観ることができ。来る客と帰る客が鉢合わせにならないよう工夫がなされていたり、客間や大階段など、随所に格式の高い遊郭建築独特の趣向を観ることができた。参加の女性群の中にはちょっと複雑な気持ちを持った方もいたようだ。この建物は、当時川本楼として昭和33年まで営業していたがその後は、客間が下宿として利用されたという。

最後まであと一息、重いお尻をあげ、すぐ近くの秀長にまつわる伝説のある「源九郎稻荷神社」へ。ここは、歌舞伎や文楽の「義経千本桜」に登場する「源九郎狐」を祀る。そして、コース最後の郡山八幡神社へ。その門構えから歴史を感じ取ることが出来るが郡山城築城以前からある当地の鎮守社であるという。

ゆっくり、ほぼ1日かけて全行程約6キロ歩いた。事前歩きに参加してあまり知らなかった秀長さんをより身近に感じることができたので、大河ドラマが楽しみだ。(N.N記)



柳沢神社横で講師の説明を聞く



郡山城下町の風景

最後まであと一息、重いお尻をあげ、すぐ近くの秀長にまつわる伝説のある「源九郎稻荷神社」へ。ここは、歌舞伎や文楽の「義経千本桜」に登場する「源九郎狐」を祀る。そして、コース最後の郡山八幡神社へ。その門構えから歴史を感じ取ることが出来るが郡山城築城以前からある当地の鎮守社であるという。

ゆっくり、ほぼ1日かけて全行程約6キロ歩いた。事前歩きに参加してあまり知らなかった秀長さんをより身近に感じることができたので、大河ドラマが楽しみだ。(N.N記)

ゆっくり、ほぼ1日かけて全行程約6キロ歩いた。事前歩きに参加してあまり知らなかった秀長さんをより身近に感じることができたので、大河ドラマが楽しみだ。(N.N記)

ゆっくり、ほぼ1日かけて全行程約6キロ歩いた。事前歩きに参加してあまり知らなかった秀長さんをより身近に感じることができたので、大河ドラマが楽しみだ。(N.N記)

奈良の歴史文化資源探索

◎興福寺五重塔、大規模修理の現場を見学

実施日 2025年11月27日(木)

参加者 23名

小春日和となった実施日、近鉄奈良駅噴水前に10時集合。10分足らずで興福寺五重塔前に着く。まずは見学前に塔をバックに中田講師から説明を受ける。五重塔は聖武天皇の妃、光明皇后によって建立されるが、なぜ、光明皇后が五重塔を造るに至ったかなど、天皇家の系図を示しながらの皇位継承問題に関わる興味深い話を聞いた

この後、素屋根の内部へ。

興福寺副貫首の多川良俊僧侶の出迎えをうけ全員ヘルメットを着用後に、エレベーターで塔の五層目まで一気に上る。

そこは、瓦を下ろした大屋根が目の高さに広がっていた。

ここからは奈良県文化財保存事務所興福寺出張所の新井康之氏のご案内で、保存修理についての詳しい説明をうける。

かたわらには、下ろされた興福寺の文字が入る平瓦や丸瓦などが積まれていた。

五重塔は創建以来、度々の消失と再建を繰り返し、現在の建物は室町時代の遺構を伝える貴重な文化財として、国宝に指定されている屋根瓦葺きは明治の全面葺き替え修理から120年ぶりという。

今回の令和の大規模な保存修理は、屋根瓦葺き替えが主たるものになり部分修理も行われるが、一か所大変なことが見つかったと。

「人間で言うと腰にあたる『大斗(だいと)』という部分が上からの荷重により、破損ないし圧縮変形しているのがわかり、新しい木材に取り替えることになった。」

参加者からは「五層分の重さを支えている大斗をどのようにして取り替えるのか」「瓦は全て新しいものになるのか」などの質問が飛び交い、五重塔に対する関心度がみてとれた。

全体で800トンの重さのある屋根瓦は約6万点、各瓦の再用・不再用は打音検査で見極めるが、半分ぐらいは再利用できる見込みらしい。最後に初層を見学し、みんなは1時間余りの説明に熱心に耳を傾向けた。

このあと、駅前の食事処でミニ懐石弁当に舌鼓を打つ。食後再び講師の説明が、用意された資料に基づいてあった。

塔の源流にはじまり、興福寺の歴史、奈良における神仏分離、明治初年の廃仏毀釈は興福寺が最も激烈であり、廃寺同然となった。この時、興福寺にどのようなことがあったか、僧侶のいなくなった興福寺のその後は、等…、書物からの引用を交えながらの話だった。

このように、一旦は廃寺となった興福寺だが、明治14年に興福寺の再興が内務省に



五重塔登壇前に中田講師より説明



五重塔(五層)にて

許可され、以来その法灯は受け継がれてきた。

その後、北円堂、五重塔、三重塔、東金堂が「国宝」に指定されて、平成30年に中金堂の再建も成し遂げ、現在に至っている、と。

この後、電車移動で菖蒲池駅近くにある蛙股池を見学。

風光明媚な池を眺めながら、その名の由来やこの池は丘陵の谷に造られたダム型の池であること。

一見すると地域のどこにでもある只の池しかしこの池のことは『日本書紀』の推古天皇15年(607)条に「この歳の冬に

倭国に高市池、藤原池、肩岡池、菅原池を作る」とあり、この菅原池が蛙股池とされている。

このことにより、現存する日本最古のため池、であるとの説明、傍らにあるあやめ池神社に参拝し、予定通りの行程を終えた。(N.N記)



蛙又池堰堤よりあやめ池神社を眺望

4. 吉野川源流の水源地の森を守る活動支援

◎「吉野川・紀の川源流まつり」in しらす祭りに参加

11月3日(祝)、「吉野川・紀の川源流まつり」が和歌山市内の和歌浦港で開催され、当フォーラム事務局から財部・加古が参加しました。

川や水の恵みでつながる吉野川・紀の川流域の市町村が協力し、地元の物産の販売などを通じて豊かな川、海のPRに努めておられました。奈良県からは川上村、東吉野村、黒滝村なども参加され、特に川上村のブースでは、パネル・ポスターの掲示や資料の配布などを通じて、源流の村として水源地の森を守る取組について紹介されていました。

当フォーラムは、今後も川上村並びに森と水の源流館との連携を深め、「吉野川源流の水源地の森を守る活動」の支援を続けてまいります。



NPO法人 奈良21世紀フォーラム役員名簿

(令和7年度)

(令和8年1月1日現在)

役職名	氏名	職業(経歴)
理事長	橋本 隆史	(株)南都銀行 取締役会長
副理事長	谷口 宗男	元奈良交通(株) 相談役
特別顧問・理事	森本 公誠	東大寺長老
特別顧問・理事	堀井 良殷	公益財団法人関西・大阪21世紀協会 顧問
理事	飯田 保之	近鉄グループホールディングス(株) 執行役員
理事	上野 誠	國學院大學 教授
理事	植野 康夫	元(株)南都銀行 特別顧問
理事	扇谷 泰之	(株)シードコンサルタント 相談役
理事	花山院弘匡	春日大社宮司
理事	菊池 攻	奈良トヨタ(株) 取締役社長
理事	久保 昌城	竹茗堂 左文 代表
理事	桑原 克仁	近鉄ケーブルネットワーク(株) 取締役社長
理事	小山 修	(株)近鉄百貨店 執行役員商業施設運営本部奈良店長
理事	小山 新造	小山(株) 取締役会長
理事	小山 佳延	KNT-CTホールディングス(株) 代表取締役社長
理事	澤田 啓二	元東大寺学園中・高等学校教諭
理事	高田 知彦	奈良中央信用金庫 理事長
理事	中井 隆男	大和ガス(株) 相談役
理事	西川 恵造	(一財)南都経済研究所 理事長
理事	森本 俊一	三和澱粉工業(株) 取締役会長
専務理事(事務局長)	財部 久吉	奈良交通(株)総務人事部課長
監事	津山 恭之	東大寺総合文化センター 総長代理
監事	中畷 大	中畷大会計事務所 所長

2026年1月発行
編集 財部 久吉
発行 NPO法人 奈良21世紀フォーラム
〒630-8115 奈良市大宮町1丁目1番25号
奈良交通本社ビル1階